

1	【学校の自己評価が適切かどうか】適切である（４） ・保護者だけでなく、生徒や保護者の声も聞いており良いと思う。 ・良い点・悪い点を理解している。 ・教育目標「天神山でよかった」へのアプローチが、ぶれていない点が経営方針に生かされていると思う。
2	【自己評価の結果を踏まえた今後の改善策が適切かどうか】適切である（３）もう少し足りない（１） ・すべての結果を真摯に受け職員一丸となって改善しようという意欲がうかがえる。 ・改善策が思うような結果が出ないときは、また次の改善策を工夫しているのがよい。 ・分かる授業を実践し繰り返し検証していただきたい。 ・評価規準がある程度明確になっており、具体的な改善策が明記されている。 ・重点的な取組目標の(1)(2)に対してはもう少し足りたいと思う。
3	【自己評価の項目（観点）が適切かどうか】適切である（３）不足がある（１） ・時代に必要な項目やポイントがあればよい。 ・点数だけでなく意見があるともっと良い。なぜ学力層がDEなのか。 ・学力向上のための具体的な事項の１つである「学校が楽しい」と認識される自己肯定感、自信、心の満足を促進させるプログラムに一工夫があれば、より良くなると感じた。特に、心の満足が得られるにはすべてが連携しなければならない。
4	【教育活動や学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか】適切である（３） ・一人一人に合った学習法が見られ良かった。 ・学習面だけでなく、人としての育ちを大事にしているのは、意欲にもつながり将来地域にとって頼もしい。 ・やってダメなら修正をしてほしい。 ・学力向上も大事だが、安心安全で楽しい学校づくりに継続して行ってほしい。 ・概ね適切である。 ・心の満足が得られるには、どの指標を設定すべきかを検討してもらいたい。 ・生徒・保護者・教職員・地域との情報共有の在り方、天神山小独自の強みを更にブラッシュアップしてこそ、安心、安全で「天神山でよかった」という目標へのベクトルが向上すると思える。 ・給食のメニューや残飯などについて市などと話し合ってほしい。

第1回学校関係者評価委員会による意見交換

- ①学校研究で、「対話」を取り扱っているのは、とても良いことである。学習の面だけでなく、対話をするもののその先を児童にも、先生にも浸透すべきである。対話をすることで、児童同士の助け合いや児童のSOSを拾い上げるシステムが構築されるのではないかな。
- ②家庭の教育力の格差が目立ってきた。暴力・体罰・いじめ等家人の中で浸透しているのか。家庭教育の必要性が年々必要になってきた。相談の受け皿の連携が必要である。
- ③保護者アンケートの信頼度は、あるのか。長子の数、回収者数からすると本当に信頼度がある調査なのか。本当なら、アンケートを通して自分の子供のサインを見逃さないようにしてほしい。
→回収率66.2%（長子数163 回答数108）
- ④分かる楽しい授業に取り組んでほしい。最近常識の範囲から逸脱している方もいらっしゃる。考え方も違う。保育園は、お迎えの時保護者と顔を見合わせて話をする機会があるが、話をしてもダメな場合もあるが、保育園側が歩み寄っているのが現状。家庭も子供のために話し合ってほしいと思う。

⑤夏休み明けの不登校は、どのように対応しているのか。

→学年登校日に来ていない児童に対しては、必ず担任から電話連絡を行った。9月1日少しぐずった児童もいたが、保護者と連携をとりながら、対応することができた。

⑥学校と保護者でうまくいかない場合について。その児童をみんなで矯正することはできないか。民生児童担当も使ってほしい。

→ケース会議を2回行っている。(警察 児童相談所 子育て支援課 市教委)アプローチをかけているがうまくいかない。同じステージにのってこない。また相談させてほしい。